2024年01月　　第077回

情報分析と教養

令和6年は大変な幕開けとなった。能登半島震災、羽田空港飛行機事故、ニューヨークキルーズベルト・アイランド爆発、北九州飲食店街火災、西新宿マンション火災、田中角栄邸火災、エプスタイン・リスト公開など、枚挙に暇がない。果たしてこれが日本の正月か。

ある識者は、情報分析は、裏情報ではなく、公開情報のみを基に行うべしと言う。たしかに、裏情報は出典が明らかにされないのだから、信憑性は別にして、何でもありになってしまう。一方、公開情報は、信憑性は別にして、誰でもアクセス出来る正統性ある情報である。そして、公開情報を鵜呑みにせず、公開情報として発信された事の意味、公開情報として発信されない事の意味を、あらゆる観点から分析する事が重要なのである。

公開情報を基にあらゆる観点から情報分析を行うには、幅広い教養を備えていなければならない。理系、文系などと言っている場合ではない。自分なりに、本学と末学、リベラル・アーツ的な教養体系確立を心掛けたい。また「頭」だけではなく、「身体性」を保持しておきたい。表面の事に圧倒され、実は大変な事が起こっているという事を認識できていないケースがあるからだ。

しかし、情報分析と教養は目的ではない。自らの本分に精進するための手段にとどめておくべきである。

江幡　淳